

温暖化防止活動

# 環びわこ学生 ネットゼロムーブメント事業

## 2023

滋賀県の大学生が  
温室効果ガス削減に  
取り組んだ活動記録



インスタはこちらから↓



# 滋賀の大学生だから できたこと



地球温暖化から、地球沸騰化と言われた2023年の夏。世界各地で異常気象が観測され、気候変動問題は待ったなしの課題となっています。その対応として、脱炭素社会実現に向けた取り組みの強化が求められています。滋賀県でも、琵琶湖の表層温度が40年でおおよそ1.5℃上昇しており、温暖化など気候変動による生態系への影響が懸念されています。琵琶湖を大切に思う私たちだからこそ、豊かな自然と充実した日常生活が、共に持続可能な発展をしていく新しい生活スタイルにチャレンジしていく時です。

環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業では、滋賀の大学生が大学生活の中で温室効果ガス削減に取り組んでいます。県内の大学では、マイボトルを持って大学に行く、新しいキャンパスライフ（＝新しい生活スタイル）が始まっています。先輩達の取り組みは確実につながっています。そして、広がっています。大学生の活動から大きなムーブメントが起きようとしています。

あなたの学校や地域でもこの取り組みをしませんか。



## もくじ

数字でみる温暖化……………	3
環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業について・ 今年の取り組み……………	4 - 6
活動報告会	
■立命館大学・龍谷大学チーム RiRy…………	7 - 9
■滋賀県立大学チーム SUSBo ……	10-12
■滋賀県地球温暖化防止活動推進員より …	13
■アンケート結果・おわりに……………	14

### 2023年度参加者

#### 滋賀県立大学

坂口 紀彦

澤田 奎湖

林 秀哉

アリサラモハメドサイド

佐古 鈴実

中西 絵梨

富田 光琉

#### 立命館大学

板倉 舞香

塚 夏紀

#### 龍谷大学

濱田 伊織

#### 企業とのワークショップのみ参加

#### 滋賀県立大学

村林 悠真

和久田捷斗

岡本 志保

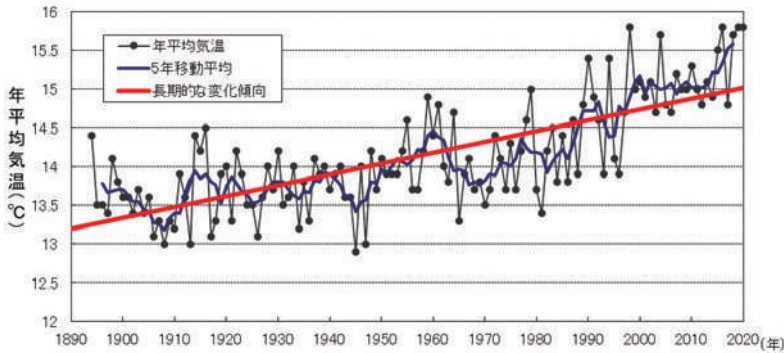
高橋 咲樹

#### 成安造形大学

田中 風花

# 数字で見る温暖化

## 滋賀県の年平均気温の変化

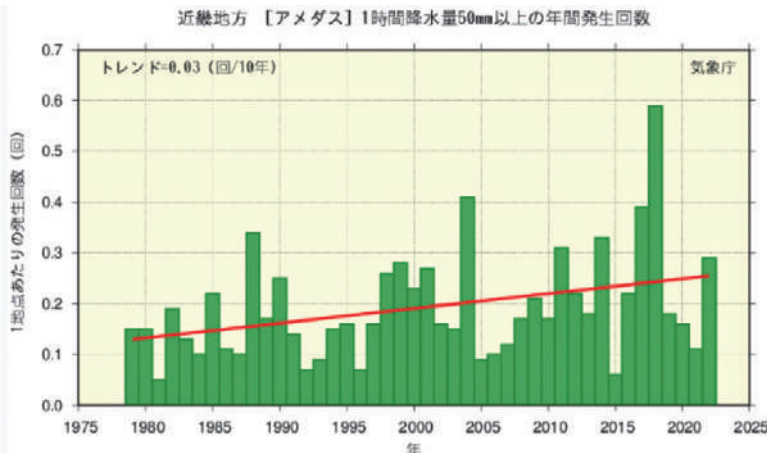


滋賀県Webサイト「ゼロナビシガ」より引用

約**1.4°C**上昇

彦根の年平均気温は、  
100年で約1.4°C上昇

## 近畿地方の雨の変化



**増加傾向**

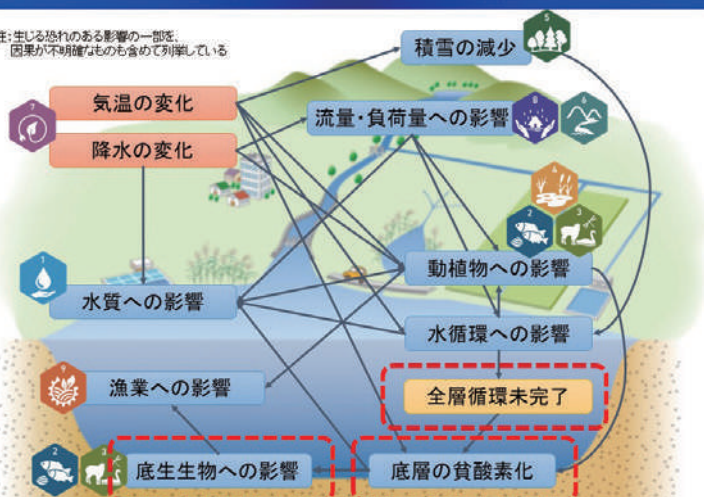
近畿地方では、非常に激しい雨(1時間降水量50mm以上)の回数は増加傾向

近畿地方の1時間降水量50mm以上の短時間強雨の年間発生回数の経年変化  
棒グラフ(緑)は毎年の値、直線(赤)は長期変化傾向を示す。

出典：気象庁ホームページ

### 気候変動による琵琶湖への影響

注：生じる恐れのある影響の一部を、  
因果が不明確なものも含めて列挙している。



琵琶湖環境科学センター 佐藤祐一専門研究員 提供

私たちの住む地域でも、  
気温の上昇、降水の変化が起きて  
います。これらの影響は、琵琶湖  
の水質や生態系など、多岐にわた  
ると考えられています。

**豊かな自然環境を  
守るために、  
私たちができることに  
取り組みましょう**



# ネットゼロムーブメント事業について

この事業は、大学生が主体となって、温室効果ガス排出削減に取り組む企画です。持続可能な社会の実現に向け、大学生の活動がCO<sub>2</sub>ネットゼロムーブメントを起こし社会を変えていくことをサポートしています。



学ぼう

・温暖化防止、CO<sub>2</sub> ネットゼロについて学ぶ



つながる

・大学、学部を超えたネットワークを形成する



ひろがる

・参加学生が周りの学生や企業を巻き込みながら活動を行う

## これまでの取り組み

### 1年目(2021年度)

コロナ禍でスタートした1年目。「学ぶ」のテーマを中心に、活動をしました。第1～3回は、株式会社滋賀銀行、パナソニック株式会社アプライアンス社、京セラ株式会社から、企業における脱炭素の取り組みを学びました。第4・5回は、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの研究員の方や他県で温暖化防止活動をしている大学生の話聞き、最終回は、ラ コリーナ近江八幡で、これまで学んだ知識を生かし「自分たちができる一歩」を考えました。この発表の中で、大学生生活における資源(ペットボトル)の消費を減らすため、マイボトル持参の活動提案がされ、次年度へ引き継がれました。



▲ CO<sub>2</sub>ネットゼロにつながる取り組みを考える様子(2021年度)

### 2年目(2022年度)

1年目に参加した学生の提案を受け、「つながる」をテーマに3つの大学別チームに分かれて活動をしました。滋賀県立大学チームは、学生が自ら大学に給水機設置の要望を提示しました。ウォータースタンド株式会社の協力もあり、実証実験として給水機の設置が実現し、学生への周知活動や、給水機の流量から500mlペットボトルの本数に換算し、マイボトルの給水に置き替えた場合のCO<sub>2</sub>排出削減量を算出しました。立命館大学チームは、大学と連携しながら、既存の給水機を活用し、キャンパス内の学生へ給水機の周知とマイボトルでの給水の呼びかけを行いました。動画を作成したり、マイボトルにちなんだ川柳を募集するなど、学生らしい工夫を凝らした活動を行いました。成安造形大学チームは、デザイン力でマイボトルの普及に取り組みました。ボトルのデザインコンペを行い、優勝作品をボトルに印刷し、大学近くの滋賀日産自動車株式会社 堅田店で配布しました。どのチームもCO<sub>2</sub>排出量削減のため、ペットボトルの購入からマイボトルを持参する環境に配慮したキャンパスライフを呼びかけました。



▲ 滋賀県立大学の学生が大学の担当者へ取り組みの報告をする様子(2022年度)



▲ 大学生が、推進員さんと意見交換した内容を発表する様子(2022年度)

## 3年目(2023年度)

3年目は「ひろがる」をテーマに新しい活動にもチャレンジしました。昨年活動したマイボトルの取り組みは先輩から後輩に引き継がれ、大学と共に活動が継続しています。そして、新たに2つの活動をしました。1つは、環境負荷が大

きいファッション産業に注目し「サステナブルファッション」の活動、もう1つは、2050年までの社会を担う学生が、企業の方の力を借りながら脱炭素の課題を探求し、課題解決のアイデアを競う「脱炭素アイデア王」の活動をしました。

### 昨年から継続した取り組み!

➡ 詳しくは、P7~12の学生の発表をご覧ください

## テーマ①:マイボトル持参率向上

CO<sub>2</sub>排出量削減のためのマイボトル持参率向上の活動は、2年目を迎えて着実に進化しています。滋賀県立大学では、新入生全員に大学オリジナルボトルが配布され、実証実験だった給水機も本格導入となりました。約9割の学生がマイボトル持参運動を知っており、大学全体で盛り上がっています。

今年度の事業では、滋賀県立大学チームと立命館・龍谷大学チームの2チームに分かれて活動しました。アンケートやワードラリーで現状把握や給水機の場所の認知度向上、水に溶かすタイプのお茶やスポーツドリンクを配布するなど、ペットボトル購入からマイボトル持参への行動変容を促す活動が行われました。一方で、給水機や学生によるマイボトル持参運動の認知は高まるものの、マイボトルを全く持たない人にはどのようにアプローチすればいいか、新たな課題も見えてきました。次年度の活動や新しいアイデアに期待大です。

### フリーマーケットで実践!

## テーマ②:サステナブルファッション

➡ 詳しくは、P11~12の学生の発表をご覧ください

滋賀県立大学は、今年度からの新しい活動「サステナブルファッション」にも取り組みました。大学生にとって身近なファストファッションから環境への影響を考えようとポスターやSNSで呼びかけ、大学の構内に古着回収ボックスを設置、集めた古着を秋の学園祭「湖風祭」のフリーマーケットで販売しました。

当日は一般募集の出店者200ブースの一つとして参加し、会場は多くの人で賑わいました。古着をただ販売するだけではなく、ポスターや言葉で活動の主旨を伝え、クイズへの参加を促したり、購入された衣服の重さからCO<sub>2</sub>排出削減量を示すなど、さまざまな工夫を凝らしました。

初めての取り組みで手探りの状態でしたが、次の活動につながる新たな発見やヒントもあり、今後の展開が楽しみです。

### 【お客様の声】

- ・息子用にシャツとパンツを購入しました。環境をテーマに消費について考えること、大学生の皆さんが活動することは良いことだと思います。普段の生活ではゴミの分別や無駄なものは買わないなど意識しています。クイズも勉強になりました。
- ・県立大学は琵琶湖も近く、環境をテーマにした活動としての出店はとてもいい取り組みだと思います。衣服の廃棄が環境問題に影響していることは、なかなか普段の生活では実感がないので、もっと意識しないとイケないと思いました。
- ・服のリメイクが趣味でフリーマーケットはよく利用します。好みの古着を組み合わせ、自分で作ったものを着るのが楽しみ。これもサステナブルファッションですね。

▶ 昨年活動した先輩達(給水機と大学オリジナルボトルを持ってアピール)



▶ 先輩から流量チェックの方法など、引き継ぎを受ける様子



▶ サステナブルファッションフリーマーケットの様子



▶ 売れた衣類の重さを測定、CO<sub>2</sub>の削減量を算出



## 企業にアイデアを提案!

# テーマ③:もし、〇〇業界の社員だったら、 2050年脱炭素社会の実現に向けて何をする!?

～企業の方から課題を聞き、一緒に新しい未来を想像し、  
企業の方へ課題解決法をプレゼンテーションしてみよう～

協力企業：旭化成建材株式会社、トヨタモビリティパーツ株式会社滋賀支社、日世株式会社びわ湖工場(五十音順)

今年度、2つ目の新しい活動は、脱炭素に取り組む企業の方とのワークショップです。「脱炭素アイデア王決定戦」と銘打ち、大学生はチームごとに企業が抱える課題解決に挑みました。2050年に脱炭素社会を実現するにあたって、これから企業の中核人材となる現役の大学生が、企業の脱炭素における現状の課題を把握し、解決する方法を自ら情報収集、整理分析し、まとめとして企業へプレゼンテーションする企画です。大学生は、課題を正しく理解しアプローチの仕方を試行錯誤しました。情報収集のために企業訪問したり、企業にメールをして調査したりと、苦戦しながらも、様々なアイデアを考え、最善案を企業の方にプレゼンテーションしました。学生にとってそれは、まるでその企業の社員になったかのような体験。プレゼンテーションまでには、企業の方々には多大なご協力をいただきました。おかげで、大変有意義で価値ある時間を提供できました。ありがとうございました。参加学生のこれからは楽しみです。

### 【参加学生の感想】

- ・CO<sub>2</sub>の排出量削減についてどうすれば解決に繋がるのか、真剣に考えることができました。
- ・企業の方とたくさん話し合いできる機会はなかなか無いと思うので、とても良い経験になりました。
- ・学んだことも多く、自分でも納得のいくプレゼンができたので、参加してよかったなと思いました。



▲ 学生によるプレゼンテーション



▲ 初代アイデア王に選ばれた学生がTV取材を受ける様子



▲ 9月12日 プレゼンテーションが終わりほっとしている学生と協力くださった企業の皆様で記念撮影



## RiRy (立命館大学・龍谷大学) チーム

### マイボトル持参の普及の取り組みについて

ペットボトル使用削減による CO<sub>2</sub> 削減を目標に掲げ、学内に設置した給水機の認知度向上と利用促進に取り組みました。アンケート調査で現状を把握し、啓発ポスターやビラ配り、ワードラリーの実施など工夫を凝らし、学生への周知を図ることができました。

発表動画は  
こちらから↓



#### 龍谷大学 先端理工学部 横田先生より講評

とにかく求め続けたということが大きい。大学の中で物事を進めるには、いろんなところに「お願いします」とやっていくことが大事だということを示してくれたと思います。今回は給水機でしたが、他の部分も求め続けていくことが大事で、成果が出たことはよかったです。ぜひ続けていってください。

学生が発表したスライド (ページ数の都合で、抜粋、加工しています)

### RiRyの目標

ウォーターサーバーの普及に伴う  
ペットボトル使用削減によるCO<sub>2</sub>削減

4

### なぜウォーターサーバーに着目??

ペットボトル1本のCO<sub>2</sub>排出量  
**105.1g**

↓

一年間ペットボトルの購入を抑えたら  
**一人当たり約40kg**  
(365日×1本×105.1g=38,361.5g)  
CO<sub>2</sub>排出量を削減できる!

ペットボトル1本  
150円とすると、  
**約5.5万円節約**  
(365日×1本×150円  
=54,750円)  
できる!!!

5

### なぜウォーターサーバーに着目??

昨年度 立命館大学で**18台**のウォータースタンドが設置された  
昨年度の活動により、立命館大学ではウォーターサーバーの利用が普及した

龍谷大学にはウォータークーラーしか無い  
(足でペダルを踏み、口を近づけて飲むタイプ)

↓

龍谷大学にもウォータースタンドを設置したい!  
そして、マイボトル持参を普及させCO<sub>2</sub>を削減したい

6

### 立命館大学

### 活動事前アンケート結果

あなたは学内にあるウォーターサーバーを使用していますか?

- 毎日使用している
- たまに使用している
- 過去に使用したことがある
- 使用したことがない
- ウォーターサーバーがあることを知らない

ウォーターサーバーの認知率は**98.2%**!!

9

### 立命館大学

### 活動事前アンケート結果

あなたはマイボトルを持ち歩いていますか?

- 常に持ち歩いている
- よく持ち歩いている
- たまに持ち歩いている
- 全く持ち歩いていない

10

### 立命館大学

### ワードラリー

目的: ウォータースタンドの普及とマイボトル持参の促進  
期間: 2023年10月2日~11月17日  
設置台数: 8台  
キーワード: (\*▽\*)ノ  
応募方法: Google Form  
景品: ステンレスボトル15本  
11月27日~29日に配布  
応募人数: 48人

11

### 立命館大学

### ワードラリーのキーワードポスター例

12

### 立命館大学

### 昨年度実施したアイデアコンペの受賞作品を用いた啓発ポスター

立命館大学地域連携課様にポスターの掲示を依頼  
BKCのインスタグラムでも紹介

13

\* CO<sub>2</sub> 排出削減量は、環境省「リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷について」を参考に、500mlペットボトルをステンレス製ボトルに替えた場合を試算



滋賀県立大学 環境科学部 平岡先生より講評

「知ってもらう」ことに重点を置いた活動で、少人数ながら大学横断型でチームを作る面白い取り組みが非常によいと思います。将来めざす姿を主眼に置いて目標設定をするバックカスティング方式で取り組むと、今までにない革新的な取り組みが生まれてくるのではないかと思います。

滋賀県立大学 環境科学部 吉川先生より講評

どうしても活動自体が目的になりがちですが、その先の課題を見える化されているのが素晴らしいと思いました。組織が大きい分、少人数で非常に苦勞されたと思います。今後は規模拡大をめざし、活動をさらにアピールしてみんなに知ってもらうことが大事だと思います。

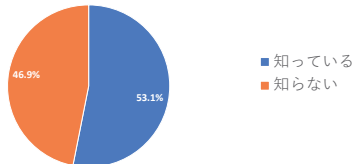


立命館大学

活動事後アンケート結果

目的：私たちの活動の認知度を知る、マイボトル持参率の調査  
 期間：2023年11月22日  
 回答者数：113名

ワードラリーを行っていたことを知っていますか？

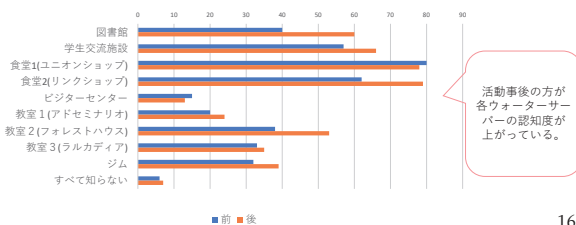


14

立命館大学

活動前と事後アンケートの比較

学内にあるウォーターサーバーを知っている場所を選択してください



16

立命館大学

気づいたこと・反省点

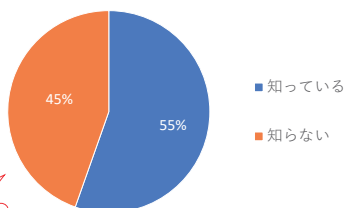
- ・活動事後アンケートで、ウォータースタンドを毎日使用していてもワードラリーの活動を知らない人が7%ほどいた。  
→宣伝方法に問題があった可能性がある。学内ウェブサイトでの宣伝や大きなポスターを用いるなどの工夫ができた。
- ・ビジターセンター（キャノピー）のみ認知度があがっていなかった。  
→あまり知られていないウォーターサーバーのみでワードラリーなどの活動を行ってみる。

18

龍谷大学

アンケート結果

あなたは龍谷大学内にウォーターサーバーがあることを知っていますか？



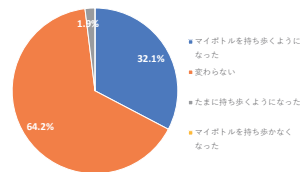
「ウォーターサーバーの認知度はまだまだ低い...」

22

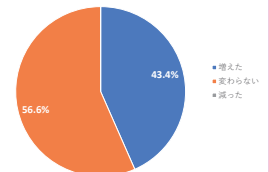
立命館大学

活動事後アンケート結果

啓発活動に触れてから、マイボトルを持参する頻度が増えましたか？



啓発活動に触れてから、ウォーターサーバーを使用する頻度が増えましたか？



15

立命館大学

アンケートにより得られた要望

- ・学生がよく使用する教室棟（コラーニングハウス）に設置してほしい（19件）
- ・マイボトルを配布してほしい（8件）
- ・食堂前のウォーターサーバーが混むのもう一つ欲しい
- ・お湯が出るようにしてほしい（3件） など

活動事前アンケートの結果は、地域連携課様に共有済み  
 要望に対する今後は話し合い中

17

龍谷大学

宣伝方法

ポスターの掲示  
 8カ所の掲示板上に設置

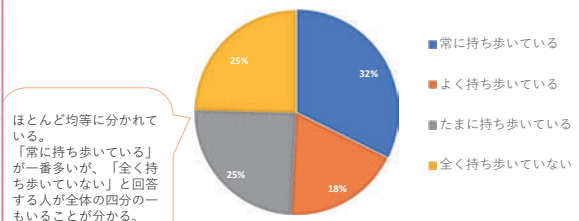
ビラ配り  
 9月20、21、22日  
 食堂前で昼休みの時間に配布



21

龍谷大学

マイボトルを持ち歩いていますか？



ほとんど均等に分かれている。「常に持ち歩いている」が一番多いが、「全く持ち歩いていない」と回答する人が全体の四分の一もいることが分かる。

23

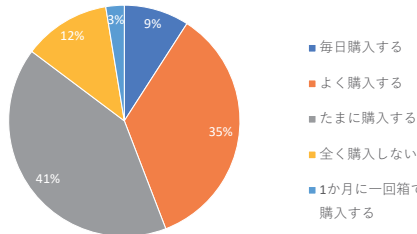
## 参加した感想



- チームの人数も少なく、キャンパスも違うので協力して活動することが難しかったのですが、特に立命館大学では給水機の使用頻度が増えたと答えてくれた人も多く、私たちの活動がCO<sub>2</sub>削減につながったと思います。
- 大学が違うからこそ情報共有が楽しく、お互いに励まし合いながら連携でき、最後に報告会で発表できたこともうれしく思いました。
- 給水機を毎日使っていてもワードラリーの活動を知らない人もいたので、宣伝方法やポスターの大きさなど工夫が必要だと感じました。ビラ配りをした際、給水機に興味を持ってくださる人が多かったため、今後も宣伝を行っていくことで関心は高まっていくと思います。

### 龍谷大学

あなたはどれくらいの頻度でペットボトル飲料を購入しますか？



24

### 龍谷大学

#### 反省点

- ・ワードラリーの応募人数が少なかった
- ・宣伝効果が薄かった
- ・目立たなかった

- 期間を多めに設ける
- ・大きく、目立つ色合いのポスターを作る
- ・給水機付近に立て看板などを設置

見えづらい...



26

### 龍谷大学

#### 現在の取り組み

- ・「水プロ」さんの取り組みに協力

ウォーターサーバーの試験設置に向け、アンケート結果の共有を行い、検討していただいた。

試験設置の間、周知してもらうための企画の提案を行う

29

#### RiRyの活動まとめ

当初の目的である、

#### 龍谷大学にウォーターサーバーを設置すること

を実現することができた

今年度の活動が、ウォーターサーバー設置実現への一歩となった。



31

### 龍谷大学

#### ワードラリー

目的：ウォーターサーバーの認知度を上げるため

期間：10月23日～11月17日 (約1か月間)

応募人数：16人

宣伝方法：ポスターの掲示  
ビラ配り

景品：ステンレスボトル



#### ワードラリー実施中

給水機に貼っている「ワードラリー」を全部で50枚貼って、景品をもらおう！

ステンレスボトルを景品で20名の方にプレゼント  
※景品の抽選は、11月17日(土)に実施します。抽選結果は、立命館大学環境部から発表します。



25

### 龍谷大学

#### 掲示

10月28、29日の学祭で掲示  
来場者に活動を知ってもらうため、  
活動内容を記載  
持ち帰れるような配布資料を作成



27

### 龍谷大学

#### 気づいたこと

ビラ配りの際、給水機に興味を持ってくださる方が多くいた

- 今後、環境問題に関する宣伝を行っていくことで、生徒の関心は高まっていくのではないかと

龍谷大学は環境問題に積極的に取り組んでいるので、学生に知ってもらえるような機会を設けた方が良いのではないかと

- 講義の初めに五分ほど時間を取って、龍谷大学の取り組みや、環境問題について考えてもらえないだろうか

30

#### RiRyの活動まとめ

目標：ウォーターサーバーの利用を促進することでCO<sub>2</sub>を削減すること

私たちの活動にご協力いただいた方の延べ人数

	活動	人数
立命館大学	活動事前アンケート	114人
	活動事後アンケート	113人
	ワードラリー応募者	48人
	計	275人
龍谷大学	活動事前アンケート	65人
	ワードラリー応募者	16人
	計	81人

少なくとも  
356人の方に私たちの活動を  
知ってもらえた！

32



## マイボトル持参の普及と サステナブルファッションの取り組みについて

マイボトル持参率の向上をめざしたアンケートやクイズラリー等のイベントを実施。今年度は古着の再利用による環境負荷低減をめざす活動にも取り組みました。サステナブルファッションの認知度向上と意識啓発を目的に学生から古着を回収、フリーマーケットを通して服と環境への影響を数値化するなど情報を発信しました。

発表動画は  
こちらから↓



今年度の取り組み マイボトルプロジェクト 6

◆目標  
マイボトル持参を促すイベント企画を実施し、  
マイボトル持参率の向上を目指す

◆年間スケジュール

4月: 新入生募集  
5月: 初顔合わせ  
6月: アンケート実施  
7月: イベント実施  
8月: イベント実施  
9月: アンケート実施  
10月: アンケート実施  
11月: イベント実施  
12月: マイボトルデザイン募集  
1月: 卒業&代替わり  
2月: 卒業&代替わり  
3月: 新入生募集準備

\*1週間に1回 流量計チェック (給水量の確認)  
\*1ヶ月に2回 ミーティング

アンケート結果 ~マイボトル持参率~ 8

◆マイボトルの持参頻度

約70%以上の方がマイボトルを  
毎日・ほぼ毎日持参

◆今年の目標  
・毎日持参の割合を70%まで上げる  
・持たない人の割合を10%切る

アンケート結果 ~マイボトル事業の認知度調査~ 9

◆USBoの活動の認知度

約90%以上の方が  
私たちの活動を認知

そのうち約75%の方  
が給水機を利用

・私たちの活動を知っているが、給水機を利用しない層がある  
⇒この層をマイボトル持参ユーザーに取り組みよう！

アンケート結果 ~相談内容~ 10

◆実際の利用者の声

- ・常水がすぐ無くなるので必ずスペースをあけてください (4人)
- ・体育館の冷水が出ない時がある
- ・水筒を無料配布してほしい
- ・氷と熱湯も出してほしい
- ・これからも続けてほしいです etc

◆これから対処すべきこと

・利用の多い給水機は、給水が追いつかないことが多い  
⇒ 5か所の給水機に人を分散し、  
給水がなくなることを減らそう！

7月イベント ~利用の少ない給水機の認知度を上げよう！~ 12

◆イベント内容  
交流センターとA7棟の給水機前のクイズに答えると、豪華景品がもらえる  
⇒実際に足を運ぶことで、給水機の場所を認知してもらう狙い

▽広報用ポスター

▽クイズ問題

Instagram、学内掲示を行うことで...イベントは...

7月イベント ~利用の少ない給水機の認知度を上げよう！~ 13

◆実際のイベントの様子

参加者：68名  
工学部：29名 環境科学部：21名 人間文化学部：18名 人間看護学部：0名

利用の少ない  
交流センターとA7棟の給水機  
認知度UP

10月イベント ~マイボトル持参率の向上を目指そう！~ 14

◆イベント内容  
5か所の給水機にあるキーワードを読み取り、ワードラリーを実施  
⇒給水機を全て回ることで、幅広い人に給水機の場所を認知してもらう  
⇒給水機の利用者が増えることで、マイボトル持参率の向上につながる狙い

▽広報用ポスター

▽クイズ問題

7月より広報に力を入れ、Instagram、学内掲示を行うことで...イベントは...

10月イベント ~マイボトル持参率の向上を目指そう！~ 15

◆実際のイベントの様子

参加者：104名  
工学部：50名 環境科学部：29名 人間文化学部：21名 人間看護学部：4名

7月イベントと比較し、  
倍近い人が参加

景品を7月より、  
グレードアップ!!

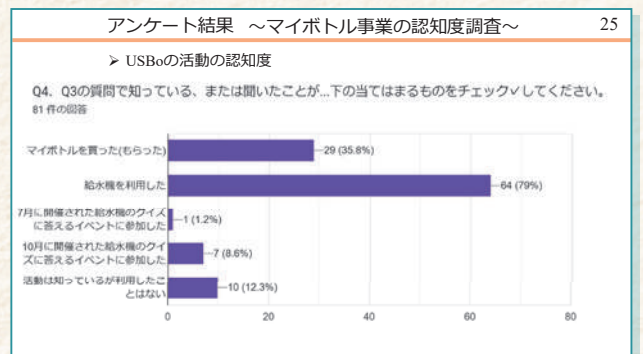
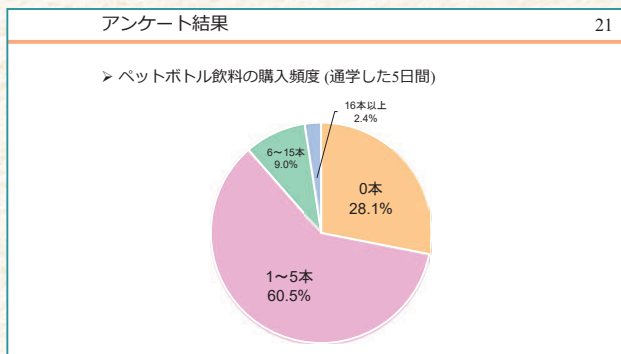
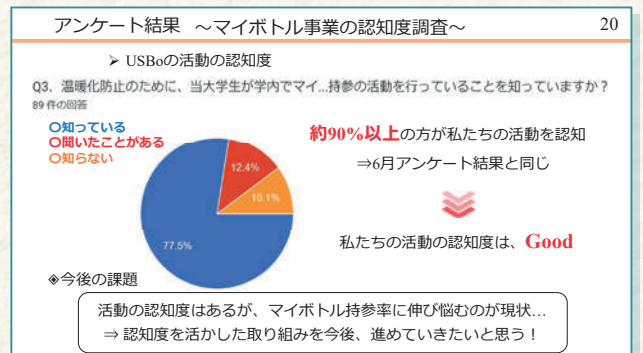
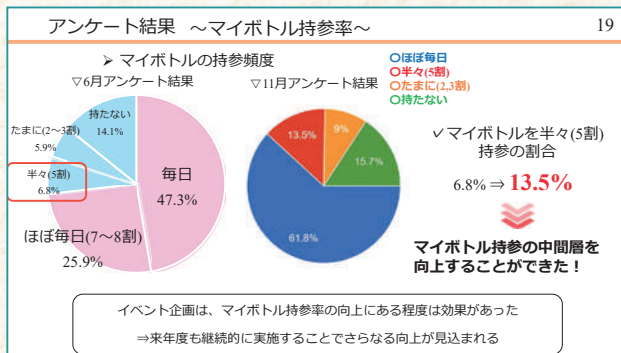
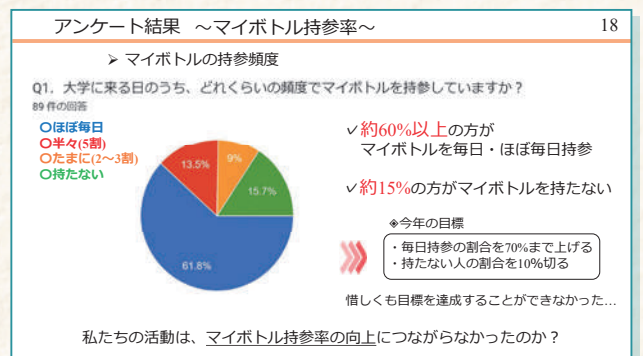
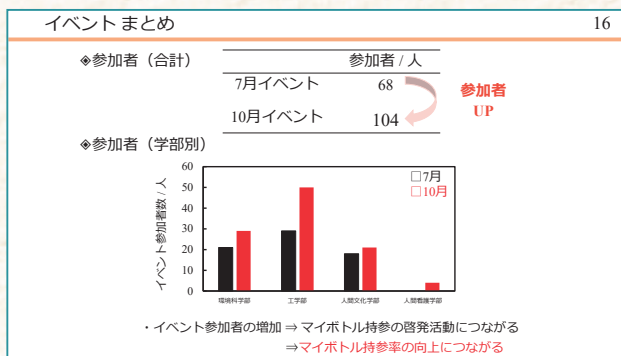


## 滋賀県立大学 環境科学部 平岡先生より講評

しっかりとチームを作り、2つの活動を展開したところがよかったです。マイボトルプロジェクトはかなり大学の中でも浸透し、仕組みをしっかりと定着させたことは意義ある取り組みだと思います。サステナブルファッションもすごく面白い。特に学生の皆さんに身近な問題で入口としていい取り組みだと思います。どちらも次の展開が楽しみです。頑張ってください。

## 滋賀県立大学 環境科学部 吉川先生より講評

こうした活動は継続が大事です。特に学生のプロジェクトは続けるのが難しい、しっかり活動をアピールして、ぜひ次のメンバーの獲得につなげてほしいと思います。廃棄物減量について彦根市も学生さんと一緒に何かやりたいと思っておられるので、ぜひ複合的な目を持って今後の取り組みを進めていただければと思います。



### 背景、問題提起

#### ファッションと環境問題

■“ファストファッション”の普及  
→ 供給量の増大と価格低下

↓

(大量生産 - 大量消費 - 大量廃棄)  
(負のスパイラル)

### 衣服と環境影響

服1着あたりの環境影響

CO<sub>2</sub>排出量: 25.5kg  
水消費量: 2300L

杉の木1本あたりのCO<sub>2</sub>吸収量(年間)

CO<sub>2</sub>吸収量: 8.8kg



## 参加した感想

- サステナブルファッションは初めての取り組みで、前期、後期いろいろ苦戦はあったのですが、ひとまず大成功ということで良かったと思います。
- 大学生にとって身近なファストファッションから環境問題について訴えかけることが大事だと考え、サステナブルファッションをテーマに活動しました。今回はフリーマーケット出店だけでしたが、古着の回収量が非常に多かったため、今後は回収の時期や方法も模索していきたいと思えます。
- 古着の販売では服を生地として見る人も多く、新しい発見でした。リメイクなどのイベントを地域の方と一緒にすると、もっと面白いものになると思いました。
- 今年はCO<sub>2</sub>削減という目標に対して、マイボトルとサステナブルファッション、両方の視点で環境問題に取り組むことができ良い経験になりました。今後は学外へも活動の輪を広げ、いろんな人を巻き込んで続けていけたらと思います。
- 発表後にいただいた講評がすごく参考になり、「こういう考え方もできるな」と、新しい取り組みの可能性を感じ、楽しみになりました。自分たちの活動報告を見て、来年活動する人が面白そうだと思ってもらえると嬉しいです。

### 今年度のサステナブルファッション活動 30

#### > 活動目的

1. サステナブルファッションに関する認知度の向上
2. サステナブルファッションに対する意識の啓発
3. 2023年秋湖風祭のフリーマーケットで回収した古着の販売



### 古着回収での啓発活動 32

#### > 取組内容

- 古着回収とフリマ出店に関するポスター掲示 (10月2日～)

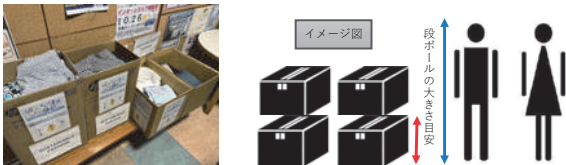


### 古着回収の結果 34

#### > 取組内容

- 古着回収結果

段ボール箱4つ分(約35kg)の古着回収を達成!!



### フリーマーケットの古着販売 35

#### > 取組内容

- 2023秋湖風祭フリーマーケットの出店日程) 11月4日(土)11:00-17:00  
場所) 滋賀県立大学バス停前広場

#### ■ 販売活動の結果

購入客数: 24名  
総売上高: 2800円  
服の総重量: **13.83kg**



### フリーマーケットの環境効果 36

#### > 取組内容

- 環境貢献度

※ 服 1kgあたりCO<sub>2</sub>排出量53.7kg-CO<sub>2</sub>より  
13.83kg × 53.7kg-CO<sub>2</sub> = 742.67kg-CO<sub>2</sub>

サステナブルファッション活動によるCO<sub>2</sub>削減量  
**742.67kg-CO<sub>2</sub>**

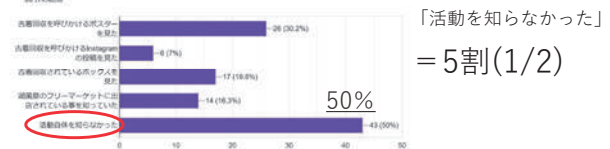
スギの木  
84本  
CO<sub>2</sub>/年

### 活動終了後のアンケート調査 (11/29実施) 39

#### > 質問内容

- 今年度のサステナブルファッション活動の認知度について

「活動を知らなかった」 = 5割(1/2)



### 活動終了後のアンケート調査 (11/29実施) 41

#### > 質問内容

- 現在すでに取り組んでいるサステナブルな行動

サステナブルファッションの取り組みに関して...ついては当てるものをすべてお選びください。



情報・知識が少なく  
取り組み率が低い

### 今後の展望 42

- 日常的に実践できるサステナブルな行動の啓発活動  
→ Instagramやポスターによる服を長く大切に着用するための啓発
- 取組率の低い取り組みに関する情報提供  
→ 原料の種類や洗濯表示マークの情報
- 衣替え時期の古着回収活動の提案と方法の模索  
→ 6月初旬と10月初旬の1か月間実施
- SUSBOプロジェクトの認知度普及活動  
→ 定期的なアンケートによる意識調査とクイズの実施

\* CO<sub>2</sub>排出削減量は、2018年 Quantis社の報告書数値より算出



## 活動報告を聞いた

# 滋賀県地球温暖化防止活動推進員さんと企業のみなさまより

### 立命館大学・龍谷大学チームのみなさんへ

- ・目的を成し遂げようとする意欲が素晴らしいと感じました。
- ・昨年から今年と継続的に活動してこられたことは評価できると思います。
- ・2つの大学が連携して活動されたことは大変よかったと思います。
- ・発表を聞いたことで考え方がわかり、参考になりました。今後はさらに全校対象とした事業拡大に期待したいと思います。



### 滋賀県立大学チームのみなさんへ

- ・昨年より数段アップし、より分かりやすく、より細やかな報告でした。
- ・マイボトル持参率向上というチャレンジを、学内だけでなく学外にも広げ、もうワンステップ飛び出してみると面白いと思います。
- ・衣服の重さを量ってCO<sub>2</sub>排出量を出し、杉の木で換算する見せ方はすごく分かりやすくいいと思いました。フリーマーケットの購入者にも、その場でCO<sub>2</sub>削減量を示して啓発できたらよいと思いました。
- ・回収した古着の中でシミや穴などで販売できないものは、リメイクの得意な人とコラボすると面白い企画になると思いがら楽しく聞かせていただきました。
- ・古着の回収や販売など、例えば地域の女性たちの知恵を借ると、もっと面白くなるのではないかと思います。

### 全体

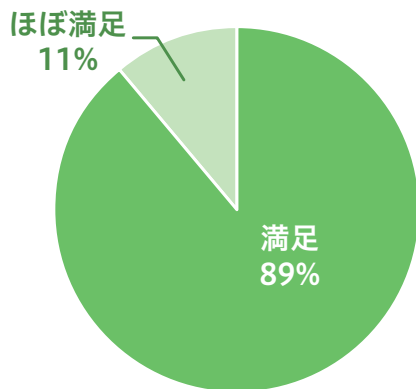
- ・しっかりと目標を設定し、結果も評価できていて素晴らしかったです。自分たちの活動にも取り入れないといけないと反省したところです。
- ・マイボトルの普及や服のリサイクルなど、学生の皆さんの取り組みを自分の地域や職場に持ち帰り、何かできないか考えたいと思いました。
- ・調査方法を各チーム同じにして、トータルで評価してもよいのではないかと思います。“継続は力なり”ですね。





## 参加学生のアンケート結果

この活動の満足度

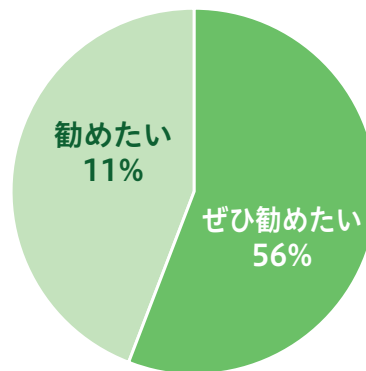


5段階回答

- 5：満足
- 4：ほぼ満足
- 3：普通
- 2：やや不満
- 1：不満

89%の参加者が活動に参加して満足と回答

友達や後輩にお勧めしたいか



5段階回答

- 5：ぜひ勧めたい
- 4：勧めたい
- 3：どちらでもない
- 2：あまり勧めたくない
- 1：勧めたくない

100%の参加者が友達や後輩にぜひ勧めたい/勧めたいと回答

## 参加した感想

- CO<sub>2</sub>削減はこれからの世の中にとっても大事だと考えていたので、この活動に参加できたことがうれしく、成果も上げられたので良かったです。
- この活動が大学生の環境問題、意識向上につながり、良かったと思います。
- 企業とのワークショップでは普段、関わることのない企業の方々と交流でき、とても有意義な時間でした。これまでになかった視点から環境問題について考えることができました。
- 一からイベントを企画し、どのように工夫すれば学生に興味を持って参加してもらえるかを考えることが非常に難しかったけれど、そこが楽しく面白かったです。
- 学生をしているだけだと視野が狭いと感じることが多く、大学を飛び出して世代の違う人たちと交流するなど、外に目を向けることが大事だと思いました。次に活動する後輩に期待したいと思います。
- 今まで知らなかった環境に対する知識や考え方を学ぶことができました。この経験を今後活かしたいと思います。
- 活動報告会では実際に社会で働く方たちだからこそ出てくる視点や意見を聞くことができ、とても良かったです。また、他大学の取り組みを肌で感じることができました。



## おわりに

学生みなさん、おつかれさまでした。

何が一番印象に残っていますか？どんな学びがありましたか？貴重な機会を生かし伸び伸びと活動した時間、一生懸命取り組んでいるのに上手くいかず苦戦した時間、どんな時間であったとしても最後までやり遂げ、発表会を迎えた皆さんはとても素晴らしいです。私の学生時代の性格を振り返ると、うまくできないな、なんか行きたくないなと思ったら逃げて、発表会を欠席してたのではないかと…。そう考えると、発表会までやり遂げたみな

さんは本当に素晴らしいです。心から拍手！ちゃんと自分の実績として誇りに思ってくださいね。

こうして何かの縁で集まった皆さんが、将来、環境をリードする人材として、どこかで出会い活躍してくれることを願っています。私は皆さんと創り上げる2050年がとても楽しみになってきました。協力してくださった企業の皆様、推進員の皆様、有意義な時間を本当にありがとうございました。(o)



**公益財団法人 淡海環境保全財団**  
(滋賀県地球温暖化防止活動推進センター)

〒525-0066 草津市矢橋町字帰帆2108番地  
淡海環境プラザ2階

TEL : 077-569-5301

FAX : 077-569-5304